



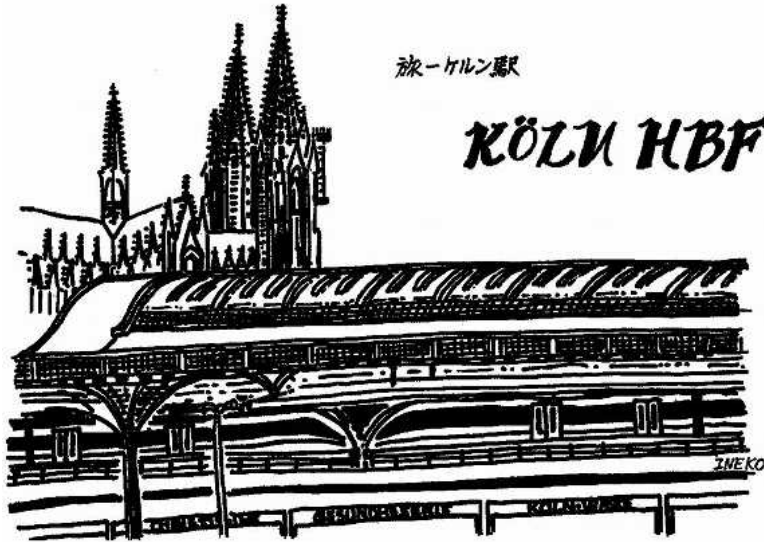
2012年2月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2012年2月
第90号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩 (28) (岡田健嗣)	1
点字から識字までの距離 (86) (山内 薫)	16
東京漢点字例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	20
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	26
漢文のページ	29
ご報告とご案内	31
漢点字講習用テキスト(初級編・第30回)	34
編集後記 (木下和久)	35

漢点字の散歩 (二十八)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (十一)



前号では、私の一身上の事情によって、本欄を休載させていただきました。読者諸兄姉におかれましては、誠に失礼申し上げます。深くお詫び申し上げます。

4. 漢点字のご紹介

⑧ 複合文字 (二)

前回ご紹介した「傍側基本文字」は、他の文字の構成要素となる場合は、主に旁を占める基本文字です。今回はこの「傍側基本文字」を部首として含む文字をご紹介します。

ここでは、前回例示された文字から、ご紹介します。

- (1) 集 シュウ あつまる あつめる
つどう

隹 (ふるとり) / 木

「離」に含まれる「隹 (スイ)」は、「隹」の漢点字符号で表されます。「隹」は鳥の象形で、「ふるとり」と呼ばれます。「旧」の旧字体である「舊」に含まれるからです。この文字は、木の上に鳥が沢山止まっていることを表す会意文字で、「あつまる、つどう」と訓読されます。漢点字では、「隹」で表されます。「木」で木を、「隹」で隹を表します。左右が逆になっています。

熟語… (集合) (集中)

(2) 糸偏 + 級 キュウ

糸偏 + 及

織機に糸をかけて順序よく織物を織ることを表す形声文字です。順序よく織り上げることから、上下関係を表す文字として用いられます。漢点字では、「糸偏」で表されます。「級」で糸偏を、「及」で及を表します。

熟語… (学級) (等級)

(3) 月偏 + 服 フク

月偏 + ふくづくり

月偏は舟形の大皿を、ふくづくりは身を屈めた人を

象った形声文字です。この文字は、身にまとう衣服を表すとともに、降伏し付き従うことを意味します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で月を、「𠄎」でふくづくりを表します。ふくづくりは「及」に似た形ですので、同じ点字符号が用いられます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (衣服) 𠄎𠄎𠄎 (服従)

(4) 𠄎𠄎𠄎 携 ケイ たずさえる たずさわ
る

手偏 + 佳 / 乃

占いのために、佳(鳥)を台に載せて運ぶことを表す形声文字です。この「乃」は、台の形を表します。手で持って運ぶことから、「たずさえる、たずさわる」と訓読されます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で乃を、「𠄎」で手偏を表します。「佳」は省略されます。また漢点字符号は左右が逆になっています。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (携帯) 提𠄎𠄎 (提携)

(5) 𠄎𠄎𠄎 秀 シユウ ひいでる

禾 / 乃

実を結んで穂が垂れた穀物を象った象形文字です。穂が上に伸びて、よい実をつけることから、「ひいで

る」と訓読されます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で禾を、「𠄎」で乃を表します。

例… 𠄎𠄎𠄎 透 𠄎𠄎𠄎 誘

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (優秀) 𠄎𠄎𠄎 (秀才)

(6) 𠄎𠄎𠄎 跡 セキ あと
足偏 + 亦

足跡を意味する文字です。「足」と「亦」で構成される形声文字です。この「亦」は「また」ではなく、「束(シ)」の変化した形です。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で足を、「𠄎」で亦を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (足跡) 𠄎𠄎𠄎 (城跡)

(7) 𠄎𠄎𠄎 恋 レン こい こう

亦 / 心

「亦」の下に「心」が置かれた形の形声文字です。旧字体は「戀」で、上の部分は「糸・言・糸」の形です。「亦」の形はこれを簡略化したものです。この上の部分の形が引きつけることを意味して、この文字では心を引きつけるという意味を表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で亦を、「𠄎」で心を表します。

熟語… (恋愛) (恋人)

(8) 園 エン その

□ (く)にがまえ) > 袁

囲いの中に「袁」が置かれた形の形声文字です。元は墓園を意味する文字でしたが、現在では広く庭園を指し手用いられます。漢点字では、「袁」で□を、「袁」で袁を表します。

熟語… 庭 (庭園) (学園)

(9) 遠 エン オン とおい

しんによろ + 袁

「袁」に進にようを加えた形の形声文字です。遠くへ旅立つことを表して、そこから「とおい」と訓読されます。漢点字では、「袁」で表されます。「袁」でしんによろを、「袁」で袁を表します。

熟語… (遠方) (永遠)

(10) 取 シュ とる

耳偏 + 又

戦いで、敵の左耳を、右手で切り取ることを表す会意文字です。その耳は、戦果と勲功の証となりました。そこから「とる」の意味に用いられるようになり

ました。漢点字では、「取」で表されます。「取」で耳を、「取」で又を表します。

例… 最 撮 趣

熟語… 得 (取得) 聴 (聴取)

(11) 刊 カン けずる

干 + 立刀

木を刃物で削ることを表す形声文字です。版木に文字を彫って書物を出版することを刊行と言います。漢点字では、「刊」で表されます。「干」で干を、「刊」で立刀を表します。

熟語… (刊行) (月刊誌)

(12) 宇 ウ

ウ冠 / 于

大きなドーム状の屋根、あるいは大きな軒を意味する形声文字です。漢点字では、「宇」で表されま

す。「宇」でウ冠を、「宇」で于を表します。

熟語… 宙 (宇宙)

(13) 株 シュ かぶ

木偏 + 朱

は、木の根元、地面より上へ出ているところ。またそこから資本を等分して分け持つことを意味するようになりました。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で木を、「𠄎」で朱を表します。

熟語 切り𠄎𠄎 (切り株) 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (株式会社)

(14)

𠄎𠄎 基 キ もとい

其 / 土

建物の四角い基礎・土台を意味する形声文字です。

漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で其を、「𠄎」で土を表します。

熟語

𠄎𠄎 礎 (基礎) 𠄎𠄎𠄎 (基本)

(15)

𠄎𠄎 勘 カン

甚 + 力

すき(来)を研ぐことを表す会意文字です。そこから「かんがえる、しらべる」の意味に用いられるようになりました。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

「𠄎」で甚を、「𠄎」で力を表します。漢点字では、文字の左側に「甚」が位置するときは、「𠄎」の点字

符号を取ります。

熟語

𠄎𠄎 (勘案) 𠄎𠄎 定 (勘定)

(16)

𠄎𠄎 堪 カン タン たえる

土偏 + 甚

土間に設えた竈を意味する形声文字です。そこで土器などを焼くことから、熱に「たえる」という意味に用いられるようになりました。また「たのしむ」の意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で土偏を、「𠄎」で甚を表します。

熟語

𠄎𠄎 忍 (堪忍) 𠄎𠄎 (堪能)

(17)

𠄎𠄎 迭 テツ

しんによる + 失

「失」は、巫女が舞って昂ぶる様子を表す文字です。この文字は、巫女が高く低く激しく舞うことを表す形声文字です。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」でしんによるを、「𠄎」で失を表します。

熟語

更𠄎 (更迭)

(18)

𠄎𠄎 供 キョウ ク そなえる とも

人偏 + 共

「共」は供え物を捧げ持つ形を象った文字で、この文字も、人が供物を捧げすることを表す形声文字です。また「とも」と訓読して、付き従う意味にも用いられ

ます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で人偏を、「𠄎」で共を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎 (供花) 𠄎𠄎𠄎 (子供)

(19) 女偏 + 呉 ゴ たのしむ

「呉」は巫女が舞を舞う姿を象った文字で、この文字は、女の巫女が舞うことを表す形声文字です。興に乗って楽しげに舞うところから、「たのしむ」の訓に用いられました。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で女を、「𠄎」で呉を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (娯楽)

(20) 木偏 + 公 ショウ まつ

常緑樹の「まつ」を表す形声文字です。形の美しさや雄大さから、めでたい木として愛されています。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で木偏を、「𠄎」で公を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 梅 (松竹梅)

(21) 艮 (コン) 𠄎𠄎 即 ソク つく すなわち

良 (コン) + 卩 (ふしづくり)

良は艮の簡略化した形で、人が食膳につくことを表す会意文字です。そこから「つく」の訓に用いられて、食事に臨むことから「すなわち」と用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」は発音を、「𠄎」で卩を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 位 (即位) 𠄎𠄎𠄎 座 (即座)

(22) 竹冠 / 卩 竹節 セツ ふし

竹冠と卩で構成される、竹の節を意味する形声文字です。「卩」はこの文字の構成要素であることから、「ふしづくり」と呼ばれます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で竹冠を、「𠄎」で卩を表します。「良」は省略されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (季節) 𠄎𠄎𠄎 (節分)

(23) 厂 (がんだれ) ヤク > 卩

馬車の長柄の先の「くびき」を象った象形文字です。「くびき」は長柄を馬の首に繋ぐ横木です。この文字の右下の部分「𠄎」(ふしづくり)から変化したものと同じ形です。馬が馬車に繋がれることから、「わざわざ」の意味に用いられます。漢点字で

は、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で「𠄎」で「𠄎」を表します。

例… 𠄎𠄎𠄎 危

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (災厄) 𠄎𠄎 払い (厄払い)

(24) 示偏 + 申 シン ジン かみ

「かみ」を表す文字は、稲妻を象った「申」でしたが、「もうす」の意味に用いられるようになって、これに示偏を付けた形声文字が作られました。この文字は、「かみ」だけでなく、「こころ、こころのはたらき」の意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で示偏を、「𠄎」で申を表します。

熟語… 精 𠄎𠄎 (精神) 𠄎𠄎 経 (神経)

(25) 𠄎𠄎 洩 エイ もらす もれる

さんずい + 洩

水が細く長く尾を引いて漏れ出ることを表す形声文字です。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」でさんずいを、「𠄎」で洩を表します。

熟語… 漏 𠄎𠄎 (漏洩)

(26) 𠄎𠄎 臥 ガ ふす

臣 + 人

目を伏せている人を意味する会意文字です。そこから身体を横たえることを表すようになりました。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で臣を、「𠄎」で人を表します。

例… 𠄎𠄎 監

熟語… 𠄎𠄎 臥 (仰臥) 伏 𠄎𠄎 (伏臥)

(27) 足偏 + 巨 キョ へだてる けづめ

巨はさしがねを表します。直角に折れ曲がっているものと同じです。そこで足偏が付いて、「へだてる」の訓に用いられる形声文字ができました。

「巨」はまた、鶏のけづめに似ているところから、その意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で足を、「𠄎」で巨を表します。

熟語… 𠄎𠄎 (距離) 𠄎𠄎 鶏 (鶏距)

(28) 𠄎𠄎 尾 ビ お

尸 (しかばね) > 毛

獣の尻尾が垂れたところを象った象形文字です。「うしろ、おわり」の意味に用いられます。漢点字で

(44) 忍 ニン しのぶ しのばせる
刃 / 心

心を強くして耐え忍ぶことを表す形声文字です。「しのび」と読めば、忍者を意味します。漢点字では、「忍」で表されます。「刃」で刃を、「心」で心を表します。

熟語… 耐 (忍耐) (堪忍)

(45) 刻 コク きざむ
亥 (ガイ) + 立刀

「亥」は堅い骨格を表す文字で、刃物でその骨を切り分けることを表す形声文字です。そこから「きざむ」の訓に用いられるようになりました。漢点字では、「刻」で表されます。「亥」で亥を、「刀」で立刀を表します。

熟語… 刻 (刻苦) (時刻)

(46) 設 セツ もうける
言偏 + 殳 (シユ、ル又)

「殳」は矛を象った文字で、祝詞で矛を清めることを表す会意文字です。「おく、つらねる」の意味があり、そこから「もうける」の訓に用いられました。漢

点字では、「設」で表されます。「言偏」で言偏を、「殳」で殳を表します。

熟語… 備 (設備) 施 (施設)

(47) 般 ハン めぐる
舟偏 + 殳 (シユ、ル又)

舟形の大皿を打って楽器としたことを表す会意文字です。「殳」には打つという意味があります。楽器を打って「たのしむ」と用いられました。現在では、一様、色々、先頃など、全体に渡る意味に用いられます。漢点字では、「般」で表されます。「舟偏」で舟偏を、「殳」で殳を表します。

例… 盤

熟語… 般 (一般) (今般)

(48) 芝 シ しば
草冠 / 之

現在では栽培品種の芝生を指す形声文字です。元は靈妙な薬草のことでした。漢点字では、「芝」で表されます。「草冠」で草冠を、「之」で之を表します。

熟語… 芝 (芝生) (芝居)

(49) 常 ジョウ つねとこ
言偏 + 尪

尚 / 巾

帯から垂らした布である裳を意味する形声文字です。長さが一定であるところから、「つね」の訓に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で尚を、「𠄎」で巾を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 (常用) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (常時)

* 「尚」が構成要素となつてその文字の上部に位置するとき、漢点字符号は、「𠄎𠄎」となります。

(50) 𠄎𠄎𠄎𠄎 波 ハ なみ

皮は獣の皮を剥ぎ取る形を象つた文字で、それがゆらゆらと揺らめく様子と、水面の波の揺らめきが重なつた形声文字です。水の波の他、波には電磁波や音波があります。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 (波頭) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (波紋)

(51) 𠄎𠄎𠄎𠄎 肥 ヒ こえる こやす

巴は卩(ふしづくり)に由来する形で、人が屈んで

いる様子を象つています。この文字は肉月が付いて、肉付きのよい身体を表す会意文字です。また地味の豊かな意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で肉月偏を、「𠄎」で巴を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 満 (肥満) 𠄎𠄎𠄎𠄎 料 (肥料)

(52) 𠄎𠄎𠄎𠄎 悲 / 心 ヒ かなしい かなしむ

心の痛みを表す形声文字です。「かなしい」という感情の表現に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎」で非を、「𠄎」で心を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 (悲哀) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (悲運)

(53) 𠄎𠄎𠄎𠄎 否 / 口 ヒ いな しからず

神に捧げられた祈りが、拒絶されることを表す会意文字です。「いな、しからず」と訓読されて、否定を表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 不を、「𠄎」で口を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎 定 (否定) 𠄎𠄎𠄎𠄎 (拒否)

(54) 糸偏 + 編 (へん、ひらたい) あむ

隣の「扁」は、「戸」と「冊」でできた会意文字で、片開きの編み戸を表します。この文字は、文字が書かれた竹簡や木簡を革紐で綴じることが表す形声文字です。後に、書物の編纂を意味するようになり、漢点字では、「糸偏」で表されます。「編」で糸偏を、「糸」で扁を表します。

熟語… (編集) (長編)

(55) 亡 / 心 ボウ わすれる

物事に熱中して他を忘れることを表す形声文字です。漢点字では、「亡」で表されます。「心」で亡を、「心」で心を表します。

熟語… (忘却) 健忘症 (健忘症)

(56) なべぶた / 口 / 了

煮炊きして、人を持って成すことを表す象形文字です。漢点字では、「なべぶた」で表されます。「了」でなべぶたを、「了」で了を表します。

(57) 十・戈 (ほこ構え) > 衣 たつ さばく

哉は、戈(ほこ)を清めて戦勝を祈念することを表します。この文字は、哉の構えの中にある「口」の代わりに「衣」が入る形で、初めて衣服を作るときに、邪気を祓ってから布を裁断することを表す形声文字です。そこから「たつ、さばく」の訓で用いられます。漢点字では、「裁」で表されます。「衣」で哉の構えを、「衣」で衣を表します。

熟語… (裁判) (決裁)

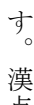
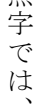

(58) ウ冠 / 呂 キュウ グウ みや



ウ冠は屋根の大きな建物、「呂」は祭壇を表す会意文字です。元は神を祭った建物を指しましたが、王が祭司を努めるところから、王の御所も「宮」と言います。漢点字では、「ウ冠」で表されます。「呂」でウ冠を、「呂」で呂を表します。

熟語… (神宮) (宮城)

(59) 芽 ガ め


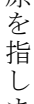
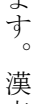
(64) 至 + 立刀 トウ いたる



至は、矢を放つて神聖な場所を占うことを表して、この文字は、人がその場所に達することを意味する会意文字です。「いたる、つく」の意味に用いられません。漢点字では、「」で表されます。「」で至を、「」で立刀を表します。

熟語…  (到着)  (到頭)

* 「致」と「到」の二文字は、字源が一つです。

(65) 里偏 + 予 ヤ の



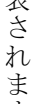
里の周辺の野原を表す形声文字です。里は田畑と社を表していて、この文字は、その周辺の、人の生活の領域の原を指します。漢点字では、「」で表されます。「」で里を、「」で予を表します。

熟語…  (原野)  (山野)


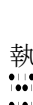
(66) 矛 + 文 (ノ文) ム つとめ つとめる

力

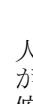

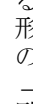
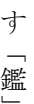
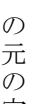
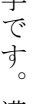
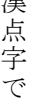
「矛」と「文」は人を背後から急ぎ立てること、

「力」は農耕を表します。この文字は、農耕に励むことを意味する形声文字です。そこから「つとめ、つとめる」の訓に用いられるようになりました。漢点字では、「」で表されます。「」で矛を、「」で力を表します。文は省略されます。



例… 

熟語…  (勤務)  (執務)

(67)  カン /  みる

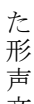

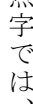
人が俯いている形の「」と「」で構成された会意文字です。「」は水盤で、水に姿を写すことを表す「」の元の字です。漢点字では、「」で表されます。「」で臣を、「」で皿を表します。他の構成要素は省略されます。

例…   

熟語…  (監督)  (監査)

(68)  バン /  おおざら たらい

般

この文字の元の形は「般」で、これに「」を加えた形声文字です。「おおざら、たらい」を指す文字です。漢点字では、「」で表されます。「」で般

を、「𠂔」で皿を表します。

熟語… 𠂔𠂔𠂔 (水盤) 𠂔𠂔𠂔 (円盤)

(69) 手偏 + 担 タン になう かつぐ

旁の「且」が音を表す形声文字ですが、本字は「擔」で、旁の「且」は、簡略形です。「になう、かつぐ」の訓に用いられます。漢点字では、「𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」で手偏を、「𠂔𠂔」で且を表します。

熟語… 𠂔𠂔当 (担当) 𠂔𠂔𠂔 (分担)

(70) 糸偏 + 紺 コン

深い青色を表す形声文字です。絹地の紺色は、大変珍重されました。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」で糸偏を、「𠂔」で甘を表します。

熟語… 𠂔𠂔𠂔 (紺青) 𠂔𠂔𠂔 (紺碧)

(71) 手偏 + 辰 シン ふる ふるう

辰は動きを意味する文字で、この文字は手で揺り動

かすことを表す形声文字です。動かして奮い立たせる意味に用いられます。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」で手偏を、「𠂔」で辰を表します。

熟語… 𠂔𠂔𠂔 (振動) 𠂔𠂔𠂔 (振幅)

(72) 雨冠 / 辰 シン ふるえる

辰は動くことを表して、この文字は天が激しく動くこと、激しい雷鳴を意味する形声文字です。そこから「ふるえる」の訓に用いられるようになりました。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔」で雨冠を、「𠂔」で辰を表します。

熟語… 地𠂔𠂔 (地震) 𠂔𠂔𠂔 (余震)

以上、十一回に渡って、漢点字の概略をご紹介します。誠に浅学と非力を痛感させられながらの作業ではありましたが、願わくは読者諸兄弟姉のご批判を仰げれば幸甚に存じます。

平成二十四年(二〇一二年、壬辰)

二月十五日

二月十五日

点字から識字までの距離（八十六）

野馬追文庫（南相馬への支援）（四）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

一月一二日に生活支援相談室のRさんから次のようなメールと写真がKさん宛に届いた。

「Kさま

昨年は大変お世話になりました。

今年は復興に向けての計画が、どんどん進んでいたのですが、

南相馬市は……まだまだ大きな課題が山積で国や県・行政、関係機関も大変だとは思いますが、頑張っていたいただきたいと思います。

K先生の講演会の資料も同封していただきましたので、広報させていただきます。

それから、今までご支援いただきました図書を設置場所の一つである、小池第一応急仮設住宅集会所内の写真を添付いたしました。

今後ともよろしく願っています。

社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会 生活支援相談室 R」

添付された写真は一月一二日に撮られたもので、仮

設住宅の集会所の中に設置されたスチール製の本棚が写っている。五段に仕切られた本棚の二段目と三段目に本が収納されており、我々が送った野馬追文庫の本、二四冊と紙芝居一組は二段目の右端にまとめられている。八月から一二月までに送った本で書架にないものは『二年間の休暇』で、どなたかが持って行って読んでいると思われる。

八月に一斉に送った『はじめて読む童話集（三）』、『そらにげる』、『トリゴラス』の他に書架に見られる本は『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』（バートン作、福音館書店）、『いつすんぼうし』（長谷川摂子作、岩波書店）、『できるかな』（エリック・カール作 偕成社）、『ぐりとぐらのえんそく』（中川李枝子作、福音館書店）、『三びきの



書架の写真

やぎのがらがらどん』(マーシャ・ブラウン作、福音館書店)、『マリールイズいえでする』(ナタリー・サヴィッジ・カールソン作、童話館出版)、『ちいさいおうち』(バートン作、岩波書店)、『もりのおかしやさん』(舟崎靖子作、偕成社)、「チャイルド絵本館」伝記ものがたり」の中の『モーツァルト』(間所ひさこ著)と『ヘレン・ケラー』(武鹿悦子著、ひさかたチャイルド)、『ねこいるといいなあ』(さのようこ作、小峰書店)、『はれときどきぶた』(矢玉四郎著、岩崎書店)、さとうわきこ作の「ばばあちゃんのおはなし」シリーズから『いそがしいよる』、『どろんこおそうじ』、『あめふり』(福音館書店)の三冊、そして『ハートのお菓子ノート』(学研)の一六冊が図書館のラベルを貼っていない本で、このうちの多くが最初に送られた一〇冊に含まれるものだと思う

れる。

その他に背表紙に図書館ラベルの貼ってある本が一冊あり、これは南相馬市の図書館から団体貸出で貸し出しされている本だろう。『生きることの意味』(高史明作、筑摩書房)や『マヤの一生』(椋鳩十作、大日本図書)などの児童書の他、門田泰明の「黒豹ダブルタウン」の文庫本が七冊、アルダス版講談社自然シリーズの『極地の生命』などが五冊、手芸や工

芸関係の実用書が二〇冊ほど(なぜか革手芸の本が三冊もあってうれしくなる)、マツプルやるるぶが五冊、日本人作家の小説が八冊ほど見られる。(五木寛之、氷室冴子、高杉良、三田誠広が二冊、林京子、光野桃、水上勉、その他に文庫本では赤川次郎が二冊、渡辺淳一が見られる)

さらに入所者などから持ち寄せられたとみられる文庫本や単行本が一六冊あり、その中に東日本大震災をテーマに詩と写真で構成された高橋桂子著の『果てなき荒野を越えて』(三宝出版)が並んでいる。二段目と三段目の書架はこれら一二七冊の本で一杯になっている。

書架の一番上の一段目にはCDラジカセとCDが一枚置かれていて、そのCDには「一、相馬盆唄、二、相馬流れ山、三、相馬二編返し、四、会津磐梯山、五、ラジオ体操第一、六、ラジオ体操第二」というラベルが貼られている。地元の民謡もラジオ体操も集會室で身体を動かすために使われているのかと思う。

書架の四段目にはティッシュペーパーの箱が六箱、ちいさいタオルが数枚、団扇が三つ、「うつくしまふくしまふるさとカレンダー二〇一二年」とその下にもカレンダーらしきものが置いてある。

そして一番下の五段目には「ライフバックCR P11

「2」というAED（自動体外式除細動器）とその取扱説明書が置いてある。AEDは最近では駅など様々な場所で見かけるようになってきている機器で、「様々な原因で心臓が痙攣を起こしている傷病者（患者）の心電図を測定・解析を行ない、必要に応じて電気ショックを与え、血液を送り出すための正常なリズムに戻すための医療機器で」「電気ショックが必要とされるか否かは、AEDが心電図をみて自動的に判断」するもので「使用者に専門的な医療知識は必須ではない。「心臓に必要のない他の手順も音声などにより指示が出される為、心肺蘇生法について専門領域の知識がなくても利用可能なようにサポートして」という機器である。「1」内はこのAEDの発売元であるメドトロニック フィジジオントロール社のホームページよりの引用）おそらく各仮設住宅の集会所には全て設置されているのだと思われる。

また写真でははつきり読み取ることができないのだが「○○○○ どうぞご活用下さい」と表紙には紙されたファイルが置いてあり、そこにいくつもの文書がとじられている。（どうも就職情報と書いてあるように見えるのだが、読み取ることができない。）

そして本棚の外の壁際に電気掃除機が置かれている。

この一枚の写真によって私たちが送った本がどのようなどころで活用されているのかがよく分かった。今までも現地に送られる前の本や仮設住宅の集会所で紙芝居を読んでいるところ、三歳児健診で布のおもちゃで遊ぶこどもの



布おもちゃと3歳児健診（2）



布おもちゃと3歳児健診（1）

写真などが送られてきていたが、今回書架を見ることで、送った本のイメージが鮮明になったのだった。

Kさんはこの写真を見て書架にマンガが一冊もないので、二月に送る本の一冊は『ドラえもん』でどうかとメールを下さった。ドラえもんには火山の噴火など自然災害を状況として取り上げたものもあるので、それが良いか選んで欲しいと言われた。実は、たまたま小学館の児童書を手がけておられる編集者の方とこのところ何度かお会いする機会があったので、その方に伺って見たところ、現在刊行中の『藤子・F・不二雄大全集』が良いのではないかとというアドバイスを頂き、第一巻と最新刊の第一六巻を送って頂いた。第一巻では一九六九年の『小学四年生』に載った次号の予約から、翌一九七〇年一月号から始まった連載の一九七四年三月号までの作品が収録されており、なぜドラえもんが未来から現在にやってくるかが分かるようになっているので、八〇〇ページ近くある第一巻を送ることに決めたのだった。そして、もう一冊は『だいくとおにろく』（松居直・著、赤羽末吉・絵、福音館書店）にした。

RさんのメールにもあったようにKさんは、二月一日の日曜日に福島市にあるコラッセふくしまという

会場でJBBY子どもの本講習会の講師をなさることになっていて、今回は郵送で送るのではなく、図書館バスで届けたいと次のようなメールを下さった。

「二月分のことなのですが、私が二月二日に、子どもの本講習会の集いで、福島市にいきますので、その前日南相馬市の空気を感じてくる予定でいます。それで、ちょうど、一日なので、いつも宅急便で送っているのですが、わたしどものくあしたの本で持っている図書館バスで、もって行くことにしました。Rさんにもご了解いただきました。二四箇所二時間ほどで回れるとの事です。」また「前日一日に先に南相馬に行つてこようかと、今考えています。午後になりますが、図書館は駅前のようなので、Hさんをご紹介します。ただけますか？特に用事があるというわけではないですが、仮設に図書館の本のような図書もありましたし、南相馬全体の本の支援の様子など伺ってきます。少し今後のことなどのアドバイスもいただければうれしいですし。」という。

Hさんは南相馬市図書館の副館長で、Wさんに私の名前を出して下さった方である。震災直後は南相馬市中央図書館も休館しており、その間は図書館から離れ復旧支援の仕事に回っていらしたが、八月六日の開館

に向けて再び図書館に戻った方だ。早速メールで今回のKさんの福島行きについて連絡して、Kさんを紹介した。

Kさんには現地の様子を知らせる写真をたくさん撮ってきて欲しいとお願いした。

なお、一月一日には、詩集の『てつがくライオン』（工藤直子著、理論社）と絵本『おもちのきもち』（かがくいひろし著、講談社）の二冊を二四箇所
の仮設住宅に送った。



あしたの本の図書館バス

「東京漢点字羽化の会」例会・

講習会報告とわたくしごと

木村 多恵子



第73回例会 2011年12月7日(水)13:30

15:30 場所 ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

「東京漢点字羽化の会」は、この12月から7年目の活動に入ります。皆様ますます健康に留意なさりながら、漢点字入力その他のご活動にご協力をお願いいたします。

12月10、17、24、2012年1月7日の「花をひろう」の当番の組み合わせを決めた。

12月21日に横浜での点字印刷に行っていたく方をお二人決めていただいた(当日はご都合により、で一人で行っていただいたという報告があった)。ありがとうございます。

会の事情で、2月に行う予定になっていた、新メンバー募集は延期することにした。

古語辞典について… 難漢文字の 記載の仕方を再確認した。

毎年、「横浜漢点字羽化の会」が、横浜中央図書館へ、漢点字訳書を収めてくださっているが、今年は

「東京漢点字羽化の会」が漢点字訳した、紀田順一郎著、「日本語大博物館」と、「寺山修司歌集」を、横浜の皆様に印刷、製本その他のご協力をお願いして、納入させていただくことになった。

歌集は新メンバーによるものである。皆様ありがとうございました。

12月21日に機関誌「羽化第89号」を皆様にお送りした。

2012年1月の例会（第74回）、2012年1月11日（水）、13…30～15…30、場所、港区ヒューマンプラザ7階第1会議室

いつものように1月14、21、28日、2月4日の「花をひろう」の入力担当グループを決めた。

1月17日の横浜での点字印刷をしていただく方を決めた。よろしくお願いいたします。

「古語辞典」に出てくる、読み取り違いをし易い文字について、皆さんで確認しあった。

「パソコンによる漢点字入力ボランティア」の会員募集講座情報を、「NHKボランティアネット」に掲載するために、本会の活動報告と募集要項の文案を作り、会員募集要項を、東京都社会福祉協議会が運営する、「東京ボランティアア市民活動センター」にも、前回に引き続き掲載すると決めたが、これらの文案は、

新会員を募集するときに改めて考えることにさせていただきます。

* 予告

2月の例会（第75回）2012年2月8日（水）

ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール、13…30～15…30

2月の学習会（第58回）2012年2月18日（土）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、18…30～20…30

3月の例会（第76回）2012年3月7日（水）

ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール、13…30～15…30

3月の学習会（第59回）2012年3月17日（土）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、18…30～20…30

4月の例会（第77回）2012年4月11日（水）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、13…30～15…30

4月の学習会（第60回）2012年4月21日（土）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、18…30～20…30

5月の例会（第78回）2012年5月9日（水）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、13…30～15…30

5月の学習会（第61回）2012年5月19日（土）

ヒューマンプラザ7階第1会議室、18…30～20…30

わたくしごと

3月1日は、韓国独立記念日である。

北朝鮮でも、同じ日に独立記念の祝いが行なわれてい

る。

1910年、日本は、韓国を、いわゆる「併合」した。

韓国の民衆は当然日本に対して抵抗し、1919年3月1日、ソウルにある、「パゴタ公園」で独立宣言を読み上げ、人々は、「マンセ！マンセ！（万歳！万歳！）」と云いながら、街頭に繰り出して行進した。

この日が韓国の「独立運動記念日」として現在に続いている。

日本の官憲は、韓国の民衆を弾圧したことで、さらに、韓国各地に、街頭行進が野火のように広がっていった。

日本の「朝鮮総督府」が、徹底的に、これを弾圧せよと命令を下したことにより、日本の軍隊と警察は、さらに壮絶な弾圧を、韓国民に加えた。

死者7509名、負傷者15961名、逮捕者2万9千名というすさまじさである。

「被害者の数値は、『高戸要（たかどかなめ）追悼文集』、日本基督教団三鷹教会有志、2002年2月発行を参照した。」

2000年3月1日は、韓国独立運動80周年記念日であった。

韓国の劇作家、李盤（リバン）が、この激しい弾圧

の事実を『ああ、チェアムリよ』という芝居に集約して、歴史の史実を書いた。これを高戸要が日本語に訳して、俳優、裏方など、およそ22名の劇団員をまとめて、日本と韓国で、日本語で上演する企画を立てたのである。劇団関係者はノーギャラ、手弁当で参加し、渡航費はおよそ130人からのカンパによった。

2000年3月1〜5日にかけて、都合3回、日本の東京神田にある、『在日韓国YMCA、スペースワイ』で、韓国の3・1独立運動80周年記念公演として、『銃剣と処容（チョヨン）の舞いⅡ3・1独立運動・堤岩里（テイガンリ）事件Ⅱ』を、わたしたち4人は3月1日に観に行った。

その後2000年11月か12月に入って、「韓国ソウルの国立劇場で、2001年3月1日の独立記念日に、〈チェアムリ〉の芝居をやるので、観に行きましよう」とさそわれた。

韓国への旅は、わたしたち4人のほかに、十数名であったが、全員この芝居を観るための参加者で、この目的以外の行動は、自由だということで、わたしはこの4人グループの中で気楽に過ごすことができた。

わたしたちが東京で観たものを、そのまま韓国でも

日本語で見られるというので、わたしはかなり安心した。つまり、この芝居の内容はそのまま、韓国で、日本人が日本語で上演するが、『ああ、チェアムリよ』とタイトルは、李盤作の原題にしてあった。韓国では「チェアムリ」と云えば、事件のあらまは分かっているのだという。

高戸要は、この芝居によってどれだけ過去の日本人の過ちを謝罪できるか、当然許されるにはそう簡単なものでないことは充分承知のうえで、少しでも、韓国との和解の糸口をつくりたいと願い、祈りを込めて、この企画を立て、日本語訳を書いたのだと思う。

わたしたちの韓国への旅は、この『ああ、チェアムリよ』を、ソウル国立劇場で、韓国の人たち5、6百人と観ること、そして、実際に事件が起きたチェアムリ教会へ行くこと、犠牲者の墓石を訪れて、お花を手向けること、「独立運動記念館」を見ること、など、心重く辛い旅であった。

肝心な、堤岩里（チェアムリ）基督教会で起きた事件とは、おおよそ以下のようなことである。

日本の軍隊と警察が、「15歳以上の男子全員、教会に集まれ」と指令を出した。そして、入り口と窓を釘で打ち付けて、絶対に逃げられないようにして、銃を

乱射し、そのうえこの堂内に火を放ったのである。こうして村には女、子供だけにされてしまった。独立運動を絶つためである。

『ああ、チェアムリよ』はこの事件を元にした芝居である。

わたしは日本語で演じられる内容を、韓国の皆さんがどうやって理解できるのだろうと気にしていたら、友人たちが、「ハングル語でスーパ―が出るから大丈夫よ」と教えてくれた。

芝居が終わって、暫く、30秒か、1分くらいだろうか？ 静寂が続き、それから徐々に小さい拍手がおこり、だんだん劇場の隅々にまで広がっていった。あの緊迫感は苦しかった。

友人の一人は、「途中の休憩のとき、トイレに行くのも怖かった。韓国の人の顔を見ることができなかつた」と云っていた。

韓国の劇場が、この芝居を受け入れるには、相当な決断を要したと思う。正に奇跡かもしれない。観に来てくださいった韓国の皆様の勇氣にも頭が下がる。

この芝居は、「3・1独立運動81周年記念公園」として、韓国内で11公演も行なったという。

わたしたちは、ソウルで芝居を観た翌日、この事件の現場である、チェアムリ教会へ行った。

堤岩里（チェアムリ）は、ソウルから列車で1時間くらい南へ下がった水源（スオン）という街から、さらに車で20分くらい行ったところの、小さな村である。実際には、わたしたちは、この行程を全てバス移動をさせていただいたので、わたしには具体的な距離感にはわからなかった。

チェアムリ教会は、戦後になって、当時の教会の姿をかかなり忠実に復元したのだという。この教会を建て直すための寄付金が、韓国各地から寄せられたという。礼拝堂の壁、廊下、あらゆるところに、当時の様子を絵に描いて展示してあるという。「写真は一枚もありませんから、女性たちがみて、話したことをまとめて絵に描いたのです。」と説明された。

この教会の皆さんと礼拝を捧げた、その後、犠牲者の名前を刻んだ墓石に詣った。この日、わたしたちと行動を共にしてくださいました高戸さんが、わたしの手を取って、「これは金さん、これも金さん、これは朴さん、これは朴さん、これは金さん、これも金さん、兄弟、親子が多いんです。ですから同じような名前が一杯です。全部焼かれてしまって、骨はありませんか

ら、石に名前を刻んでお墓の代わりに記念としたのです。」

およそ120人くらいだっただろうか。

この後、チェアムリ教会に隣接した場所に建設中の「独立運動記念館」にも寄せていただいた。この年、2001年3月1日が開館初日になるよう、準備を進めており、わたしたちはたまたま開館初日の前日の2月28日にチェアムリ教会に来たので、「少しだけでも、記念館もご覧ください」、との韓国側のご厚意に甘えさせていただいた。

恐縮しながら行ってみると、各階のフロワーを丁寧に磨いていられた。チェアムリ教会に展示されている絵の数々を、この会館に移すので、長い距離ではないけれど、今、コンポーもきちんと、行なっている最中だとも説明された。

この日、高戸さんは、大学時代の韓国の友人についても話してくださいました。「文学をはじめ、いろいろなことを話せる、とても親しい友人だった。彼は指が何か無かったです。彼はガンにかかって早死にしてしまい、とても残念で寂しい思いをしていました」。が、あるとき高戸さんと、亡くなった友人の共通の友人から、死んだ彼の秘密を聞かされたという。「この手のことは高戸には絶対に云わないでくれ、高戸は傷

つきやすいやつだから」と言っていたという。つまりこれも、独立運動のとき、日本の警察に指を折り取られたのだという。

高戸さんは、この厳しい現実を、こんなに身近に突きつけられて、あらためて愕然としたと話してくださった。そして、この問題に立ち向かう原点にもなった、とも云われた。

日本人二十人弱が、チェアムリ教会に来るというので、韓国の新聞記者もチェアムリに来た。わたしは、取材を受けて、なにを話しただろう? 「過つても、謝罪しても、わびても許していただけないことがあるのですね。わたしたち日本人はそんな取り返しのつかないことをしてしまったのですね。許していただけないことと分かっている、ただお詫びするしかありません」と、おぼろげと小さな声で言ったと思う。

かつて日本が、中国に対して行なったといわれる「三光政策(さんこうせい)さく、殺しつくし、奪いつくし、焼きつくす侵略の方策、光をすっかり無くす意味)を、韓国に対しても間違いなく行なっていたのである。

このチェアムリは、静かでのんびりした農村、という趣であり、80数年前にそんな恐ろしい惨劇が行なわ

れたとは思いたくないようなところであった。ただ、曇り空ということが、背筋を凍らす刃を感じさせられたのも事実である。

2001年3月1日、韓国の独立記念81周年記念日に、わたしたち4人は、ソウルの一般の市内バスに乗った。休日だからだろうか、車内はすいており、すぐ座席に座れ、走り出して間もなく、男性のスピーチが運転席から聞こえてきた。なんだろう? と思っていたら、たまたま乗り合わせた人が、「韓国の大統領、金大中(キムデジュン)の独立記念日のメッセージです」と日本語で教えてくださった、と後で友人が話してくれた。

パゴタ公園に行き、独立記念塔を触ってみようとしたら、友人たちが「だめだよ、年配の人たちが、わたしたちを怖い目つきでにらんでいるから」と云われた。「それに仮装行列が通っていくけれど、その中で、韓国人が血だらけになって馬に縛り着けられ、それを日本兵に扮した人が、縄で引っ張っているの。よく読めないけれど、どこかのキリスト教の団体のようよ」となまなましい説明もしてくれた。これらの行進が行き過ぎて、公園に人が少なくなったところで、わ

たしはやはり記念塔を触らせていただいた。

全体として、この旅行は重くぐったりと疲れる旅であったが、二度と遭遇できない体験で、忘れることのできない、有意義な学びの旅であった。

なお、2001年11月にソウルで開かれた「第8回、東北アジア、キリスト者文学会議」は高戸さんたちの、この仕事に対して、「アジアキリスト教文学賞」を授与したと伝えられた。高戸さんの死の丁度1か月前で、授与式には、三枝禮三（さへぐされいぞう）牧師が「文芸評論家」、つまり同志として、代わりに行かれたという。

高戸さんは、わたしたちと行動を共になされたときも、かなり病勢は進んでいたようで、この年の、2001年12月21日に亡くなられたと聴いた。

今後の課題は、二度と再び、このような愚をおかさないことである。よく云われることであるが、「足を踏みつけた方はすぐ忘れるが、踏まれた側は何時までも痛みを残し、なかなか許せるものではない」ということを！少なくとも踏みつけてしまった側のわたしたちは、この事実を忘れてはならないと思っている。

2012年2月3日 金曜

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成23年度 第9回（第55回） 報告

- 1 日時 平成23年12月17日（土）17時00分～18時45分
- 2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室
- 3 出席者（省略）
- 4 周知事項
学習会日程
平成24年1月21日（日）18時30分～
新年会 1月15日（土）13時～ ブリーズベイ
（桜木町）
- 5 使用教材
漢点字学習用テキスト初級編 第五回（全十回）
- 6 学習内容
初級編第五回
6 基本文字 （4）
発音文字と漢数字（二）
1・発音文字とは仮名点字と同じ読みで表される文字

・前回の復習

(7) 「対^対」 タ (1・3・5の点) とイ (1

・2の点)で表す。

(8) 「**𠄎**」ハ(1・3・6の点)とイ(1

・2の点)で表す。

(9) 「**𠄎**」ハ(1・3・6の点)とン(3

・5・6の点)で表す。

(10) 「**𠄎**」ミ(1・2・3・5・6の点)

とン(3・5・6の点)。で表す

・今回の学習

2. 漢数字(2)

(1) 「**𠄎**」漢数符(5・6の点)とコ(2

・4・6の点)で表す。字式は田・一(縦線)音読

みのコウは漢音、カンは呉音。熟語に「**𠄎**(きつこ

う)」「**𠄎** 甲殻類」「**𠄎** 甲骨」「**𠄎** 甲斐性(かいしよう)」「

「**𠄎** 甲斐甲斐しい」「**𠄎** 肩甲骨」「**𠄎** 甲狀腺」「**𠄎** 甲種」「**𠄎** 甲

夜(19時〜21時)」「**𠄎**、地名などに「**𠄎** 甲賀」「**𠄎** 甲州」「

「**𠄎** 甲斐(山梨県)」「**𠄎** 甲州街道」「**𠄎** 甲信越」「**𠄎** 八甲

田」がある。

(2) 「**𠄎**」漢数符(5・6の点)とヲ(3

・5の点)で表す。音読みのオツは呉音、イツは漢

音。熟語に「**𠄎** 乙甲(おつつかつ)」「**𠄎** 乙姫」「**𠄎** 乙張

(めりはり)」「**𠄎** 早乙女(さおとめ)」「**𠄎** 乙夜(いっ

や・おつや.. 21時〜23時)」「**𠄎** 乙鳥(つばめ)」「

「**𠄎** 独乙(どいつ)」「**𠄎** などがある。

(3) 「**𠄎**」漢数符(5・6の点)とヘ(1

・2・3・4・6の点)で表す。字式は一・内。音読

みのヘイは漢音。熟語に「**𠄎** 丙種合格(徴兵検査で、兵

役に適し、現役に適さない)」「**𠄎** 丙夜(へいや.. 23

時〜1時)」がある。

(4) 「**𠄎**」漢数符(5・6の点)とテ(1

・2・3・4・5の点)で表す。音読みのテイは漢

音、チヨウは呉音。熟語に「**𠄎** 横丁」「**𠄎** 包丁」「**𠄎** 一丁

「**𠄎** 一丁前」「**𠄎** 丁稚」「**𠄎** 丁寧」「**𠄎** 丁重(ていちょう)」「

「**𠄎** 丁髷(ちよんまげ)」「**𠄎** 沈丁花」「**𠄎** 丁半」「**𠄎** 丁幾

(チンキ.. アルコール溶液。ヨードチンキなど)」「

「**𠄎** 吉丁虫(たまむし・玉虫)」「**𠄎** 乱丁」「**𠄎** 丁夜(てい

や.. 1時〜3時)」「**𠄎**、国名などに「**𠄎** 丁抹(デンマー

ク)」「**𠄎** 亜爾然丁(アルゼンチン)」「**𠄎** 拉丁(ラテ

ン)」「**𠄎** などがある。

平成23年度 第10回(第56回) 報告

1 日時 平成24年1月21日(土) 18時30分〜20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 周知事項

5 学習会日程.. 平成24年2月18日(土) 18時30分〜

使用教材

漢点字学習用テキスト初級編 第五回(全十回)

6 学習内容

初級編第五回

6 基本文字 (4)

2. 漢数字 (2)

「数」には序数と基数がある。


序数(順序数)はものの順序を示す数。

基数(濃度、カーディナル数)は物の個数を示す数。

・前回の復習

「干支」の「十干」を順序を表す文字として漢数字の5・6の点を前置して表す。

「十干」は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の総称。

(1) 「甲」「漢数字(5・6の点)とコ(2


(2) 「乙」「漢数字(5・6の点)とヲ(3

(3) 「丙」「漢数字(5・6の点)とヘ(1

(4) 「丁」「漢数字(5・6の点)とテ(1

・2・3・4・5の点)で表す。

・今回の学習


(5) 「戊」「漢数字(5・6の点)とヒ(1


・2・3・6の点)で表す。音読みのボは慣用音、ボ

ウ

として漢音がある。戈は「ほこがまえ、ほこづくり」。戎(えびす)、我、戒、或、威、戦など、戊は成、威、感、茂、など多くの文字のパーツに含まれる。熟語の「戊辰戦争(戊辰の役)」1868年と和暦は慶応4年・明治元年。他に「戊夜(ぼや)午前3時〜5時、寅の刻)」がある。

* ほこづくりに「爰」があり、又は右手を意味し、手でほこを持った象形文字。類似したものに「弋」のしきがまえ、式、弌(イチ)式・弌・貳・貳(各二)がある。

(6) 「己」「漢数字(5・6の点)とキ(1
・2・6の点)で表す。音読みのコは呉音、キは漢音。熟語に「一己(いつこ)自分ひとり)」「利己」「自己中心」「自己流」「自己紹介」「知己(ちき)知人・友人)」「己惚れ(自惚れ)うぬぼれ)」「著名人に「植村直己」「堀保己一(はなわほきいち)江戸後期の国学者)」などがある。

(7) 「庚」「漢数字(5・6の点)とノ(2
・3・4の点)で表す。音読みのコウは漢音。「庚申塚」とは路傍などに青面金剛を祀つてある塚。青面金剛(しようめんこんごう)は顔の色が青い金剛童子。大威力があり、病魔、病鬼を払い除く。熟語に「長庚(ちようこう)宵の明星・金星)」。ウ

「報告とご案内」

一 横浜中央図書館への納入書

本会では毎年、横浜市中心図書館へ、漢点字書を納入しております。

今年度は、紀田順一郎著『日本語大博物館』（ちくま学芸文庫、二〇〇一年九月、筑摩書房）と、寺山修司著『寺山修司歌集』（現代歌人文庫、一九八三年一月、国文社）の二冊を納入致します。

前者は、一九九四年にジャストシステムより刊行されたものを増補したものです。

わが国の印刷術の変遷・発達を追いながら、国語表記の変遷、欧文の撰取と和文印刷、漢字排斥運動と和文の音標表記法の開発等、興味をそそらずにはおかない、内容盛り沢山の書物です。点字への言及はありませんが、明治期の国語教育の揺らぎが、現在の点字表記に、まるで化石の如く跡を残していることに、点字使用者の私達には、蒙を啓かれる思いをさせられます。この書物の一隅に点字への席が与えられれば、漢点字への言及も、必ずなされなければなるまいと、思



わずにはおられません。

後者は、来年没後三十年を迎える、歌人・寺山修司の残した短歌作品と評論を、没年に編集・刊行されたものです。

寺山の名は、当時の視覚障害者にも知られていました。しかしそれは、彼の作品に接してのことではありません。周知のように彼の行動が引き起こしたセンサーションを、マスコミがスキャンダラスに取り上げて作り上げたダーティーな像と情報によりました。当時の私達は、その名をできるだけ口に乗せないようにしていました。その理由は、一つには一般的には受けのよくない名であったこと、もう一つには、私達が口にするものは、マスコミの受け売りにすぎず、自らその作品に接して受け取ったものでないことを、内心、後ろめたさとして意識していたからではないか、そう思われます。今回初めて作品を通して寺山に触れることができるようになったことと、歌人の塚本邦雄氏の寺山論に接することができたことは、無類の幸いです。

この二書は、東京漢点字羽化の会が漢点字訳しました。大変ありがたいございました。

二 漢点字講習会と会員募集

① 漢点字講習会… 横浜漢点字羽化の会では、二〇〇三年から、漢点字講習会を開催して参りました。二〇一二年度も、引き続き開催致します。第一回を五月五日（子供の日）、14・00〜16・00に予定してあります。漢字の世界に一步を踏み出したいとお考えの視覚障害者の皆様には、奮ってご参加下さい。

なお東京漢点字羽化の会も同様の学習会を行っております。ご参加をお待ちしております。

② 会員募集講座… 東京漢点字羽化の会では、五月九日、五月二三日、六月六日（水）の三回、ボランティア会員の募集講座を開催致します。パソコンによる漢点字訳の基礎を体験していただきます。

お申し込み等の要項は、本誌次号、あるいはNHKポランティアネットをご覧下さい。

三 『常用字解』の音訳

昨年六月より、『常用字解』の音訳の打ち合わせを、東京・墨田区の寺島図書館を会場に、月一回のペースで行って参りました。多数の音訳者の皆様のご参

加を賜り、毎回誠にエネルギーシユなミーティングとなりました。ベテランの音訳者の皆様に、半年に及ぶ打ち合わせというのは、恐らく異例のことと思われるます。頭の下がる思いであります。

現在はいよいよ音訳書としての『常用字解』を目指して、本番の作業に入っていたいただきました。ご期待下さい。

四 字式表記の変更

字式は、漢字の構成と部首の配置を数式に準じて表そうという試みです。これまで左右の関係を「+」で表して参りましたが、その中に「道、超、建」等の繞の脚の上に乗る形も「+」で表して来ました。しかし「冠」の「元」、「処」の「攵」、「魅」の「鬼」のように、繞とばかりには使用されない部首の表現としては、曖昧さを否定できませんでした。そこで今回、脚の上に乗る形の符号を考案しました。それは半角の「㊦」です。点字符号に変換されますと、「㊦」の形になります。例えば「道」は、「しんにょう㊦+（㊦）首」、「冠」は、「ワ冠／＼元㊦+（㊦）寸」となります。ご批判を仰げれば幸いです。



漢点字講習用テキスト

初級編 第三十回

5 複合文字（2）

2. 第一基本文字と比較文字で構成される文字（2）

前節に続けて、〈第一基本文字〉と〈比較文字〉が部首として構成される文字をご紹介します。

※「良[⿱]𠃉[⿱]」を部首として含む文字四つと、「良[⿱]𠃉[⿱]」を部首として含む文字六つ。

*この二文字は墨字では、形の上で、天辺に点があるかないかの違いしかありませんが、音と意味には大きな相違があります。前者は「良[⿱]𠃉[⿱]」の字義、すなわち善良で豊かでゆったりとしたという意味を、後者は、目に隈取りをするとか、がっちりとはまり込むという意味を表します。漢点字では何れも「𠃉[⿱]」で表されます。

・「良[⿱]𠃉[⿱]」を部首として含む文字四つ。

(20) 朗[⿱]𠃉[⿱] ロウ ほが - らか

「良[⿱]𠃉[⿱]」の右側に「月[⿱]」を置いた形の文字です。「良[⿱]𠃉[⿱]」は、丸く綺麗な、粒の揃った穀物を表して、「よい、ものを意味します。この文字は、清らかな月の光と「良[⿱]𠃉[⿱]」で、明るくて曇りのない様子を表します。漢点字では、「𠃉[⿱] (月[⿱])」と「𠃉[⿱] (良[⿱]𠃉[⿱])」で表されます。左右が反対になっています。

「朗読」「朗唱」「朗詠」「朗吟」

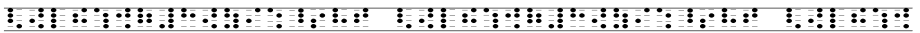
(21) 娘[⿱]𠃉[⿱] ジョウ むすめ

「女[⿱]偏[⿱]」の右側に「良[⿱]𠃉[⿱]」を置いた形の文字です。「良[⿱]𠃉[⿱]」は丸く粒の揃った穀物の意で、よいもの、美しいものを表しています。「むすめ、は、親から見た時の女の子を指すとともに、若く美しい女性という意味にも用いられます。漢点字では、「𠃉[⿱] (女[⿱])」と「𠃉[⿱] (良[⿱]𠃉[⿱])」で表されます。

「娘さん」「娘子」「小娘」

(22) 郎[⿱]𠃉[⿱] ロウ

「良[⿱]𠃉[⿱]」の右側に「おおざと」を置いた形の文字です。「ロウ、は、



男性の敬称として、見目麗しい男、あるいは凛々しい男の意味を表します。我が国では、「太郎、次郎」と、男性の名前に用いて、力強い男であれとの祈りを込めたり、兄弟の順位を表したりします。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎 (良𠄎𠄎𠄎)」と「𠄎𠄎 (おおざと)」で表されます。

「太郎さんと次郎さん」「女郎花 (おみなえし)」

(23) 浪𠄎𠄎𠄎 ロウ なみ

「さんずい」の右側に「良𠄎𠄎𠄎」を置いた形の文字です。水が穏やかに流れる、ゆったりと波が立っている様子を表す文字です。「ロウ」は、ゆったりした波という意味から、その波に揺られる、足下の定まらないという意味も生まれました。江戸時代、主を失った武士、禄を食まない武士は、「浪人」と呼ばれました。現在でも、職に就けずにいる人、大学などを目指して、何処にも所属していない人を、「浪人」と呼びます。漢点字では、「𠄎𠄎 (さんずい)」と「𠄎𠄎 (良𠄎𠄎𠄎)」で表されます。

「浪人」「浪費」「波浪」「浪曲」「浪花節 (なにわぶし)」

・「良𠄎𠄎𠄎」を部首として含む文字六つ。

(24) 眼𠄎𠄎𠄎 ガン ゲン まなこ め

「目𠄎𠄎偏」の右側に「良𠄎𠄎𠄎」を置いた形の文字です。「良𠄎𠄎𠄎」は、ものをしっかりととはめ込むことを表して、ここでは、骨の窪みにしっかりととはまり込んだ「目𠄎𠄎」を意味しています。目で見るとは、ものの本質に迫ることで、そこから、ものの中心、行動の目的の意味が生じました。漢点字では、「𠄎𠄎 (目𠄎𠄎)」と「𠄎𠄎 (良𠄎𠄎𠄎)」で表されます。

「眼科」「眼下」「眼球」「眼目」「開眼 (かいげん)」「近眼」「三白眼」「眼をつける」「びっくり眼」

(25) 銀𠄎𠄎𠄎 ギン しろがね

「金𠄎𠄎偏」の右側に「良𠄎𠄎𠄎」を置いた形の文字です。「ギン」は、白く光沢のある、美しい貴金属です。「しろがね」とは、白く輝く金属の意です。そこから、白く輝くものを、「ギン」の語で表すようになりました。また古く「ギン」は、金と並んで、むしろ金より安価なことから、使い易い貨幣として流通しました。そこから、貨幣そのものを表すようになりました。漢点字では、「𠄎𠄎 (金𠄎𠄎)」と「𠄎𠄎 (良𠄎𠄎𠄎)」で表されます。

「銀行」「銀貨」「銀河」「路銀」「銀縁眼鏡」「銀杏 (いちよう、ぎんなん)」

編集後記

今年度の図書館への納入書、「寺山修司歌集」と「日本語大博物館」が完成しました。漢点字版と

して合計6巻です。ほぼ15年前、当会として初めて挑戦したのが、「漢字源」の漢点字版、総計90巻という膨大なものでした。今考えてみても、よくあれだけのものを短時日のうちに仕上げたものと、感無量なものがあります▼それに比して、最近の製作業量は、せいぜい6巻から10巻程度のもので、こういう本格的な点字本の中味は、点字印刷用紙の上から点字部分が浮き出ているものですか、これを書籍の形にまとめるには、綴じ代の部分を折り曲げ、その部分をのりしろとして、全体をのり付けします▼こういう作業には、会員の皆さんの協力をお願いします。この比較的単純な作業でも、ある程度の慣れは必要で、毎年協力をお願いする人たちのメンバーは固定されてしまいます。とはいいながら、自分自身でもがっかりすることですが、こうして毎年同じ作業を繰り返しながら、その出来映えは今一つというか、なかなか満足できるものではありません▼さらに、基本的な紙折り、のり付けの次の段階として、表紙付けの作業がありますが、これもやり直しのきかない微妙な作業であるために、分担してやっていただける協力者が見つからず、困っているというのが現状です。

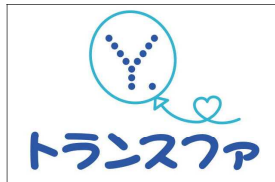
(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は4月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。